

横浜市感染症発生動向調査報告 8月

《今月のトピックス》

- 手足口病が流行のピークを過ぎました。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。

全数把握の対象

【8月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
腸管出血性大腸菌感染症	14件	後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	4件
デング熱	3件	ジアルジア症	1件
レジオネラ症	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	9件	破傷風	1件
急性脳炎	1件	風しん	1件

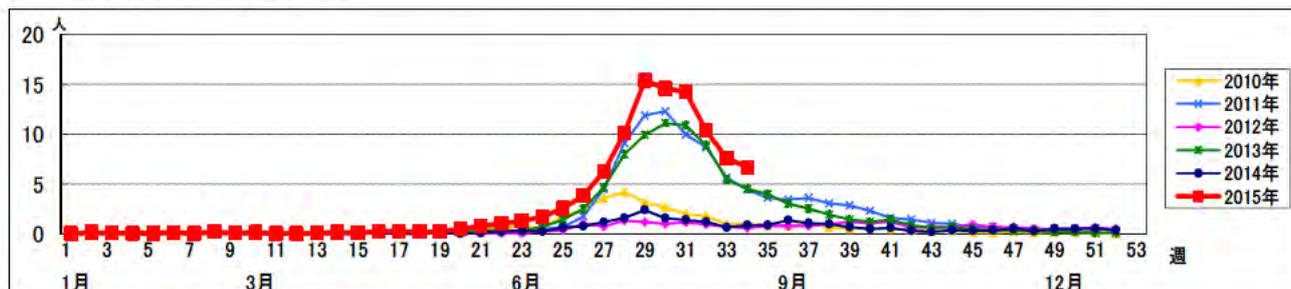
- 細菌性赤痢:** *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、渡航先(ベトナム(ハノイまたはホーチミン))での感染が推定されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症:** 14件の報告がありました。うち、3名は同一焼肉店で喫食していたことが判明しました。調査したところ、従業員1名からO157が検出されました。焼肉をする際には、生肉を扱う時はトングを、焼いた肉を扱う時は箸を使うなど、きちんと使い分け、十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)することが大切です。また、家族内発生事例が2件ありました。2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- デング熱:** 3件の報告があり、すべて海外感染例(インド(デリーまたはバンガロール)、バングラデシュ(ダッカ)、スリランカ)です。
- レジオネラ症:** 肺炎型1件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢:** 腸管アメーバ症4件の報告がありました。2件は国内での性的接触による感染で、もう2件は経口感染(1件は国内、もう1件は感染地域不明)でした。
- ウイルス性肝炎:** 1件のサイトメガロウイルスによる肝炎の報告がありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:** 9件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 急性脳炎:** 1件の幼児の報告がありました。病原体検索中です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:** 2件の報告(幼児及び60歳代)がありました。
- 後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む):** AIDS 2件、無症状病原体保有者1件、その他1件の報告がありました。うち2件は国内での感染(同性間および異性間性的接触)で、もう1件がナイジェリアでの医療機関での感染、残るもう1件が感染地域不明(同性間性的接触)でした。
- ジアルジア症:** 1件の報告があり、国内での性的接触(経口・異性間)による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:** 1件の80歳代の報告がありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:** 6件(成人例5件、幼児例1件)の報告がありました。幼児では予防接種歴が2回ありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。
- 梅毒:** 早期顕症梅毒Ⅱ期3件(20歳代女性2件、40歳代女性1件)、無症候期1件(20歳代男性)の報告がありました。感染経路では、国内での異性間性的接触2件、感染地域不明で異性間性的接触1件、感染地域不明で性的接触(詳細不明)1件でした。
- 破傷風:** 70歳代の報告が1件ありました。感染経路不明でした。
- 風しん:** 40歳代男性の検査診断例が1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。[先天性風しん症候群](#)予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予

防接種も重要です。横浜市では、①妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、②妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、③妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは[横浜市保健所ホームページ](#)をご参照ください。

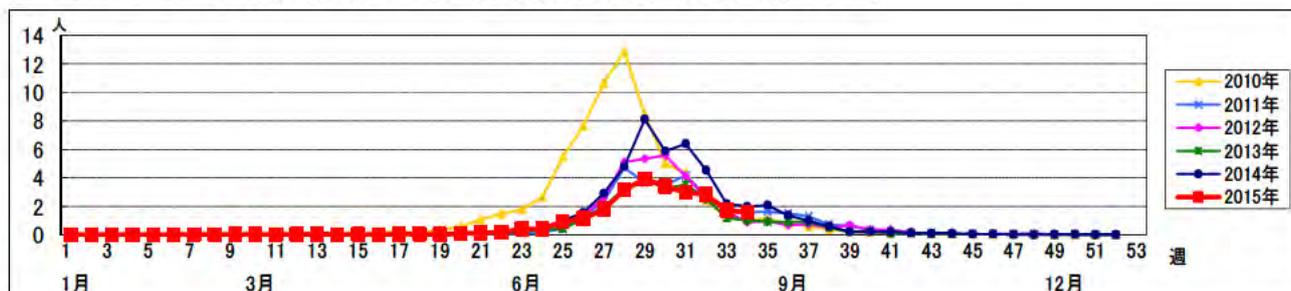
定点把握の対象

1 手足口病:今シーズンは過去10年間で最大の流行となりましたが、第34週は市全体で定点あたり6.71と低下傾向です。市内の患者からは、コクサッキーウイルスA16(CA16)とコクサッキーウイルスA6(CA6)が検出されています。CA6による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患1~2か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。

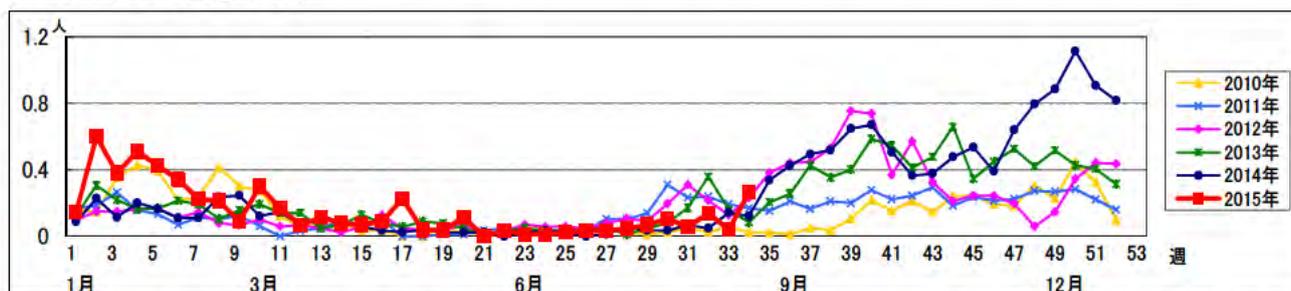
平成27年 週一月日対応表	
第31週	7月27日～8月 2日
第32週	8月 3日～8月 9日
第33週	8月10日～8月16日
第34週	8月17日～8月23日



2 ヘルパンギーナ:第34週は市全体で定点あたり1.57と低下傾向です。



3 RSウイルス感染症:第34週は市全体で定点あたり0.26と、まだ報告は少ないものの、例年これから徐々に増加する疾患です。



4 性感染症:7月は、性器クラミジア感染症は男性が32件、女性が31件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が27件、女性が1件でした。

5 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第31週1.00、第32週1.00、第33週1.25、第34週1.25と、継続して報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6 基幹定点月報:7月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症5件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症5件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点34件、基幹定点5件、眼科定点1件でした。

9月7日現在、ウイルス分離8株と各種ウイルス遺伝子26件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	RS 感染症	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性耳下腺炎	新生児発熱
パラインフルエンザ 1型	1		1					
パラインフルエンザ 3型		1						
RS			4					
ムンプス							1	
ライノ		1						
ボカ		1						
コクサッキー A5型					1			
コクサッキー A6型	3			6	4			
コクサッキー A9型						1		
コクサッキー A10型	1	1						
コクサッキー A16型		1		5				
パレコ 3型								1
合計	0 5	1 4	0 5	5 6	0 5	0 1	1 0	1 0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎は、小児科定点から1件、基幹定点から8件、その他が12件で、赤痢菌 (*S. sonnei*) が1件、腸管出血性大腸菌 (O26:H11、O121:H19、O157:H7、O157:H-) が12件、サルモネラ (*S. Typhimurium*、*S. Senftenberg*、*S. Litchfield*、*S. Enteritidis*) が7件検出されました。

その他の感染症は小児科定点から4件、基幹定点から2件、その他が42件でした。A群溶血性レンサ球菌T1型は2件とも劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から検出されました。インフルエンザ菌の血清型はf型とe型でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	8月			2015年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌		1			1	1
腸管出血性大腸菌			12		1	49
腸管毒素原性大腸菌					1	
チフス菌						1
パラチフスA菌					6	5
サルモネラ		7			53	3
カンピロバクター						2
コレラ菌						1
不検出	1	0	0	2	21	14

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	8月			2015年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌			2	3		6
T1				4		
T4				1		
T6				1		
T12				2		3
T28				1		1
T B3264	1			17		2
型別不能						
G群溶血性レンサ球菌						4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			8		7	40
バンコマイシン耐性腸球菌					1	2
<i>Legionella pneumophila</i>						4
インフルエンザ菌			2			9
肺炎球菌			4		1	70
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
結核菌			12			153
百日咳					1	2
その他		2	13		13	35
不検出	3	0	1	6	2	26

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】